

RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会 会報
2001 MARCH 第5号

日本鉄道協会 (RPSJ) 平成 12 年度総会に参加して



あいさつをするカヤ興産(株)須藤社長



DB201号ディーゼル機関車



2軸木製客車フハ2+ハ21の車内



復元された旧加悦駅前で記念撮影

日本鉄道保存協会 (RPSJ と記す) 平成 12 年度総会が、8月31日(木)から9月1日(金)にかけて京都府与謝郡加悦町のカヤ興産(株)が管理・運営する「加悦SL広場」で開催され、筆者も昨年度に続き参加する機会を得た。今年度はRPSJにとって発会后10年目にあたる記念すべき年であり、これまでの活動にとって一つの節目ともいえる総会であった。

ここでは、総会開催内容に筆者の考えも加えて、報告をおこないたい。

【8月31日】

集合は12時30分、北近畿タンゴ鉄道天橋立駅。加悦フェローライン(株)のご好意による貸切バスに乗り、

堤 一郎 (産業考古学会・理事)

「加悦SL広場」(同広場と記す)に向かう。同広場には、世界初の蒸気機関車製造会社で名高いイギリスのロバート・スチーブソン社製2号蒸気機関車(1873年製、阪神間鉄道創業時に使用された)をはじめ、木製客貨車など23両が保存・展示されている。同社の継続的な産業遺産保存活動に対し、産業考古学会(JIAS)は平成11年度に功労者表彰を、また平成12年度には2号蒸気機関車と木製客貨車に対し学会推薦産業遺産の認定をおこなっている。バスの窓からは加悦町古墳公園や、京都府の自転車道に転用された旧加悦鉄道線路跡と本社を兼ねた旧加悦駅建物を見ることができた。到着した同広場では「加悦SL広場友の会」会員の皆さんが準備を整え、私たちを歓迎してくれた。早速広場に保存・展示される

RPSJ NETWORK 第5号



施設の説明をする篠崎部長

車両群を見学し、動態保存中のDB 201号ディーゼル機関車に牽引された2軸木製客車ハ 2+ハ 21に体験乗車する。ハ 21は今年復元が終了した木製客車で、これと同広場の保存車両は一通り復元・補修工事を終えたことになる。2軸木製客車への乗車は現在では大変貴重な体験であり、参加者は特有の乗心地を思い出に残すことができた。旧加悦駅をモデルに復元された駅舎（資料館を兼ねる）前で記念撮影し、総会会場の元気館へバスで移動する。旧加悦駅跡地に建てられたこの施設はその一部が円弧状に建てられ、これがかつての転車台に沿っていることがわかる。参加者が受付を済ませ、総会が始まった。開催地団体カヤ興産(株)須藤洋右社長、代表幹事団体(財)日本ナショナルトラスト増田浩三理事、小池滋顧問、来賓の西原重一加悦町長、細井拓一京都府議會議員と挨拶が続き、恒例の参加者自己紹介と加盟団体による簡単な近況報告がなされた。この後議事に移り、1)新加盟団体・会員承認と紹介、2)退会報告、3)平成11年度事業報告、4)同年度収支報告、5)同年度会計監査報告、6)平成12年度事業計画(案)、7)同年度収支予算(案)、8)役員団体の改選、9)次回開催地（JR東海・佐久間レールパーク）、10)その他、の10件の議事が滞りなく進められた。続いて開催地団体の取り組みと現状報告に移り、カヤ興産(株)篠崎 隆観光部長からこれまでの同広場の保存活動についての事例報告がなされた。そして本日最後のパネルディスカッションを迎えた。今年度のテーマは「車両の保存技術の伝承と市民および専門家のかかわり」である。事例発表は、1)加悦S L広場友の会森本 寿事務局長、2)ふるさと鉄道保存協会笹田昌宏理事長、3)(財)日本ナショナルトラスト橋 秀幸会員である。ここで述べられたことがらをキーワード的に記すと、1)会員の積極的なボランティア活動と企業側の理解・支援、会員による自主的な講習会開催、財源の確保、2)長期的視点に立った保存活動の展開、保存車両の活用と収益策、部品バンクと書籍の確保、3)募金活動の実施、欠損部品の探索と入手、JRS規格品に関するデータ、となる。

一通り発表が終わった後、コメンテーター役の大井川

鉄道清水 武専務取締役と日本工業大学附属東京工業高等学校大石和太郎教諭からご自身の経験を背景とした意見が、さらに松澤正二、小池 滋両顧問からも感想が述べられ閉会した。

再びバスに乗り、天橋立に程近い宿泊先の文珠荘での懇親会の場で更なる意見交換をおこない、第1日目は終了した。

【9月1日】

この日は見学会であった。文珠荘をバスで出発、日本冶金工業(株)岩滝工場のニッケル鋼土を見て宮津湾沿いを走り、丹後海陸交通のケーブルカーで笠松公園へ。麓の府中駅にはケーブルカー運転用制御装置が展示されていた。頂上に到着、ここで天橋立を眼下に眺め股覗きを楽しみ帰路はリフトを利用、再びバスで加悦町古墳公園に向かう。ここでは発掘を担当された教育委員会の方から展示品について詳細な説明を聞き、参加者一同古墳に登り稲の刈取りがあちこちに見られる美しい加悦谷を一望した。その後、町内の縮緬街道の古い街並み、江山文庫を訪ね、リフレかやの里で昼食をとった。ハーブ園と温泉を持つこの施設は再び訪れたい場所であった。昼食後バスでJR福知山駅に向かい駅前で解散、2日間にわたる全日程を無事終了した。

今年度の総会は参加者も60名を越え、RPSJの社会的な存在を直接体験できるほどの盛況ぶりであった。一般に鉄道車両の保存には、組織や資金に加えてこの保存を支援し維持する人と保存に関する技術（これにはハードウェアとしてのものの存在に加えて、ソフトウェアとしての技能が含まれる）の存在が不可欠である。技術は車両の中に機能や形として具体化され保存されることが可能だが、その時代の技術を支えかつ後世に継承するための技能は人の持つ経験、感性やスキルとして目に見えない形で受け継がなければならない。これらは人を通してなされるため時間がかかる大変な仕事であるにも関わらず、これまであまり世の中の人々が注目しなかった分野である。しかし、RPSJの継続的な保存事業・活動は社会への大きなはたらきかけとなり、近年はマスコミなどが注目する機会が多くなったことは誠に喜ばしい。10周年を迎えたとはいえ、RPSJにとって今後も多くの継続的な課題が生じ、それを解決する策をいつも考えながら次の10年間を過ごさなければならないだろう。それには分野の異なる人々の持つ豊かな情熱と知恵を有機的に集結させ、その場に対応した解決策を見出すことが重要といえよう。第2期を歩みだしたRPSJに対し、JIASも学術面からの支援と努力を今後も続けたいと思っている。

末尾ながら、開催地団体であるカヤ興産(株)の皆様をはじめ、総会開催にあたりお世話になった関係各位に対しお礼を申し上げてこの報告の結びとしたい。

歴史的車両の動態保存に係る車両部品等のアンケート結果のご報告

平成12年11月20日、事務局から日本鉄道保存協会（RPSJ）加盟団体宛に標記アンケートをお送りしましたが、その回答が集まりましたので以下にお知らせします。

なお、アンケート実施の目的は加盟団体間での部品等の情報交換で、調査項目は次のものです。

1. 現在、調達したい部品や機材など
2. ストックしている部品や機材などで、融通がきくもの
3. 部品や機材などを製造している工場
4. 現在、困っていること
5. その他（引き取り手を捜しているものなど）

加盟団体からの回答を下の表にまとめました。

歴史的に意義ある鉄道車両の動態保存とそれに必要な技術や部品を将来的に継承させるためには、加盟団体相互の情報提供と交換がどうしても必要です。今回の情報を第1歩として、今後もこうしたアンケート方式での回答をまとめて掲載したいと思っていますので、加盟団体各位のご協力をお願いいたします。

なお、今回の情報に関して詳しい内容を知りたい方は、事務局までご連絡ください。

回答先	項目	回答内容
三笠市	3	札幌交通機械(株)：札幌市
	4	屋外展示品(静態保存)の保守管理、降雪と冷え込みにより、車両の除雪と損傷に苦慮
JR北海道	1	SL：単式圧縮機、800W・500W 発電機
	4	SL の車軸の温度上昇が度々発生し、軸受長生・パッドの材質検討をおこなっているが、完全な解決策はない
真岡線 SL 運行協議会	1	SL：500W タービン発電機、調圧器、空気圧縮機、シリンダオイルポンプ
	3	PC：ブレーキ装置弁類、バッテリー
	4	蒸気バルブ、刷子、軸箱パッド、注水器、150W 電球は各々専門メーカーに発注 SL 検修技術者の育成
埼玉県北部観光振興財団	3	各メーカー
日本工業大学	1	SL：投炭用ハンドスコップ
西武鉄道	3	自社武蔵丘車両検修所で多少の受注は可
虹の郷	1	制輪子、Oリング等のシール材、軸受・軸箱
	3	シール材：山下工業(株)、制輪子：村松砲金、軸受・軸箱：トーアメック(株)
大井川鐵道	1	SL 用ボイラ、蒸気コンプレッサ、注水器、投炭用ハンドスコップ
	2	旧型電車の部品、TR 型台車 (TR-14 等)
	4	資金調達 (SL 修復には数千万円から億単位の資金が必要)
	5	現在静態保存中の SL の管理体制をしっかりとしてほしい。JR 各社では管理・所管部署も明確でない所もある。
JR 西日本	3	(有)サカモト技研：神戸市長田区、共栄実業(株)：京都市南、坂口金物(株)：大阪市中央区
なつかしの尾小屋鉄道を守る会	3	(株)三越 (サンエツ)：富山市下富居
	5	客車1両の引き取り手を捜している 定員49名、大阪花博(平成2年4月～9月)で使用のもの、 寸法：長さ12.5m、幅2.2m、高さ3.6m
馬路村	1	転轍器(レールが9～12kg)
	2	上記とは異なる地方鉄道用転轍器
JR九州	1	SL：台枠、クロスヘッド、ピストン棒、連棒、オイルポンプ、コンプレッサ、主蒸気管、インゼクタ、分配弁、調圧器、汽笛、安全弁、前照灯、発電機、煙室戸、自連、板ばね、過熱管寄せ、ブロー調整弁
	3	バルブ：鳥海製作所、ボイラ・過熱管：山久(株)、鋳物：戸畑鉄工、車輪：住友金属、メッキ・釜付属部品：旭メッキ、工作物：勝山工作所、ゴム・パッド関係：ユタカ商会、釜付属部品・走り装置：九州車両資材
	4	台枠のひずみ曲り、オイルポンプの検修が困難

加盟団体からのお知らせ

山口線 SL 運行対策協議会からのお知らせ

- SL 運行地域としては全国初のオリジナル
SL チョロQ のプレゼントと販売開始 —



21 世紀の SL 運行の幕開けと、「山口きらら博」開催を記念して、山口線 SL 運行対策協議会（事務局山口県）で、現在 SL が運行している地域としては全国初のオリジナル SL チョロ Q（C571）をつくりました。

ラインナップはプレゼント用 2 種類（箱に製造番号付き）、販売用 2 種類になります。

プレゼント用は、メモリアルヘッドマークを使用した黒プレート仕様と赤プレート仕様の 2 種類、販売用は、現在走行している「つる」のヘッドマークを使用した、黒・赤プレートの 2 種類です。

入手方法は、お近くの JR みどりの窓口で乗車券及び指定席券をご購入いただき、SL やまぐち号にご乗車いただいた方に抽選で限定版をプレゼント。販売は、SL やまぐち号で配布する「SL やまぐち号記念乗車証」をお持ちの方におこないます。

詳しくは、下記の問い合わせ先までお尋ね下さい。

【お問い合わせ先】

☆プレゼント関係

山口線 SL 運行対策協議会事務局（山口県商業観光課）

TEL 083-933-3170

☆販売関係

(株)ジェイアールサービスネット広島

TEL 082-261-4782

(株)ジェイアールサービス広島

TEL 082-264-2771

☆インターネット

新たにホームページを開設しましたので、ぜひご覧下さい。

e-mail c571@joho-yamaguchi.or.jp

URL www.joho-yamaguchi.or.jp/c571/

真岡線 SL 運行協議会からのお知らせ

☆今年の SL 重連運転の運行日

2 台の SL、C11325、C1266 の勇壮な走りが楽しめます。



1 月 1 日（祝）・3 月 25 日（日）
4 月 8 日（日）・5 月 5 日（祝）
6 月 10 日（日）・7 月 20 日（祝）
8 月 5 日（日）・8 月 19 日（日）
10 月 14 日（日）・11 月 3 日（祝）

☆平成 12 年 12 月 20 日より、真岡線折本駅に SL が停車するようになりました。

【お問い合わせ先】

真岡線 SL 運行協議会 TEL 0285-82-9151

（財）日本ナショナルトラスト

トラストトレインからのお知らせ

☆オリジナルキーホルダーの販売

4 月 21 日から大井川鐵道で運転するトラストトレイン車内で、オリジナルキーホルダーを 1 個 500 円で販売します。



☆トラストトレイン運転日

4 月 21 日（土）・5 月 26 日（土）
6 月 23 日（土）・7 月 14 日（土）
8 月 25 日（土）・9 月 29 日（土）
10 月 13 日（土）・12 月 1 日（土）

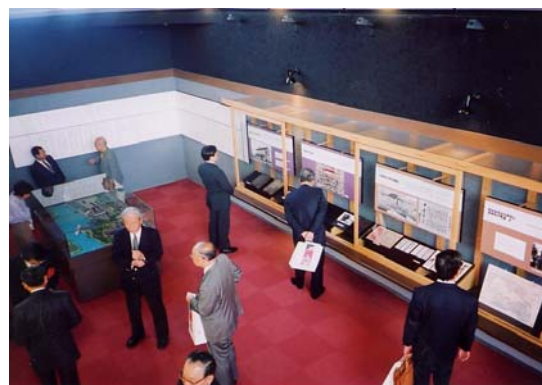
【お問い合わせ先】

（財）日本ナショナルトラスト TEL 03-3214-2631

RPSJ INFORMATION

(財) 日本ナショナルトラストのヘリテイジセンター

「長浜鉄道文化館」にて日本鉄道保存協会展を開催



昨年、10月14日の「鉄道の日」に開館した、(財)日本ナショナルトラストの5番目のヘリテイジセンター「長浜鉄道文化館」にて日本鉄道保存協会展を開催いたします。

「長浜鉄道文化館」は、現存する日本最古の旧長浜駅舎に併設して建設され、内部には鉄道の町として栄えてきた地域の歴史、文化を紹介するパネルや関連の資料を展示しています。

4月からの企画展示で日本鉄道保存協会の活動や

加盟団体をパネルで紹介しますので、機会がありましたら、ぜひご覧下さい。

【長浜鉄道文化館・ご利用案内】

□開館時間 / 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

□入館料 / 大人 300円、小・中学生 100円
(20名以上は2割引き)

□休館日 / 12月29日～1月3日

□所在地 / 〒526-0057 滋賀県長浜市北船町1-41
Tel 0749-63-4091

イギリスで国際会議開催

イギリスの鉄道保存協会とヨーク大学が共催し、保存鉄道に関する国際シンポジウムが9月下旬に開催されることになり、関係機関を通じ、昨年末、財団法人日本ナショナルトラストに連絡がありました。

アメリカ、ドイツ、フランス、イタリアも参加しており、我が国の状況を知っていただくよい機会であるにとらえ、出席することにしました。

なお、出席者は関係方面と調整し、日本チームとして我が国の実情を発表する予定です。

イギリス・復活したロコモーション号(レプリカ・複製)



平成13年度総会について

平成13年度総会は、東海旅客鉄道株式会社の「佐久間レールパーク」で開催いたします。

開催時期については、JR東海と事務局で調整していますが、10月頃を予定しています。各団体の事例やイギリスの国際会議の報告など、盛りだくさんの内容を考えています。

詳細が決まりましたら、ご案内いたします。

日本鉄道保存協会 会報 第5号 2001年3月号 編集・発行 日本鉄道保存協会事務局 財団法人日本ナショナルトラスト
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル810区 tel 03-3214-2631 fax 03-3214-2633